北海道旭川永嶺高等学校　第１年次通信

銀嶺の風（ぎんれい）

大雪山
Asahidake

2019 年 7 月 18 日
文責：横野　泉

NO.14

進化＝羽化する日

一年の３分の１が過ぎました。この間に、宿泊研修、永嶺ウォーク、そして学校祭、と、行事が続き、そのたびに悩んだり立ち止まったり、後ろに戻ったり・・・と、いろいろあったと思います。自分自身の中で何かが変わり「やるべきことが見つかった！」と思える人は、高校生活のスタートはきっとうまくいったのだと思います。自分の進化はまだまだこれからだ、と思っている人は、夏休みという節目を機に、自分がイメージし目標としてきた高校生になるために、何かを始めてみよう。
きっと、**進化＝脱皮（？）＝羽化（◎）**・・・する日も近い。

と、言うわけで、今回は４年前に飼っていた**「蚕」の話**をしようと思います。
家庭科で扱う繊維の勉強になれば、と被服教室で飼い始めた蚕たち。今の時代は新鮮な桑の葉を毎日採りに行く必要もなく、便利な人工飼料を食べさせての飼育。**点**のようだった幼虫が**白チョーク**ほどに成長し、３０匹ほどが約一か月で順調に繭になりました。「めでたし、めでたし。」・・・・・。と、思いきや、数日ほど目を離したすきに、数匹がなんと**蚕蛾に（ガ）に羽化**しているのを発見！！！！慌てて別の箱に移動させた時にはすでに遅し。蚕の第二世代の飼育をすることになってしまったのでした。その数、**千匹以上！！**成長とともに飼育箱の数も増え、毎日のお世話もけっこう大変になり、お世話の途中で呼び出された時には、手に蚕を乗せたままうろうろすることも。「虫が嫌いです。」と言われれば、ガラスに紙を貼って見えなくし、「飼っていいものとダメなものがあります。」と、部活の生徒に指摘され、「まあ、誕生してしまったんだよね。」と言い訳をし、ひたすら毎日の飼育に忙殺される日々。でも、中には、朝から蚕の**様子を見に来てくれる**生徒や、**餌をあげてくれる**生徒や、手のひらにのせて**コミュニケーション（？）**をとってくれる生徒もいて、**大きな励み**となりました。とは言え、季節は秋。北海道特有の急に長袖が恋しくなる９月となり、気温の下がった被服室では、蚕たちの**成長がゆっくり**になり始めました。２か月が過ぎようというのに、繭になろうとする気配を見せない蚕多数。飼育に忙殺される日はいつまでも終わらず。お湯を入れたペットボトルを置いてみたり、飼育スペースを毛布で覆ってみたりしても効果は上がらず。結局、寒さで弱って死んでしまう蚕が出始めて、思い切って**自宅へ**と連れ帰ることにしたのでした。ちなみに、我が家には猫が二匹います。**猫たちの目の前で、蚕１００匹**を登場させてみたところ、耳を寝かせて目はまん丸、斜めにのけぞって最大の警戒モードに。２、３回の**猫パンチ未遂事件**はあったものの、食べる事もなく、新たな家族を見守ること一週間。居心地の良い室内で、蚕はようやく繭になり始めました。飼育から解放されほっとする一方で、何とも言えない寂しさも。最後の一匹は特に手厚くお世話をしましたが、飼育箱から忽然と姿を消してしまう騒ぎに。家族があちこち探し回り、夜になって発見された時には、すでにまゆを作り始めたところ。つまり、**蚕の飼育は唐突に終了**したのでした。
なんともあっけなく。

当時、被服室の前には、蚕の成長の様子を紹介する飼育日誌を貼りだしてしました。その最後の一枚に書いたことを、載せたいと思います。

『カイコが教えてくれたこと』

カイコは一日中エサを食べています。何のために食べるのかと言うと、絹糸になるため、そしてわずかな可能性にかけて子孫を残すためです。
今回、６月から始まった２世代にわたってのカイコの飼育は、結果として１０００個近い繭を残して終了しました。途中、思いがけず繭から蚕蛾が現れて、更に油断していると卵が出現し、学習が足りず思い切り油断していると、２世代目のカイコが大量出現するというハプニングもありましたが、カイコはカイコなりに色々な事を教えてくれました。

生命（いのち）あるものを飼育するということは、途中では絶対に投げ出さない、ということでもあります。被服室の棚にあふれそうになって（文字通り脱走カイコ続出により）飼育箱の掃除やエサやりに忙殺されようとも、想像以上の糞害で空気まで汚染度 MAX になろうとも、ゲームをリセットするようなわけにはいきません。
一生懸命育てたカイコは、繭になったとたんに全くの別なモノに変わります。と、言うよりも、そう考えなければ糸をとることなどできません。私たちに糸を提供するために毎日毎日食べ続けてふくふくと育っていたわけですから。糸を取ることこそが、私たちにできることなのです。
私たちは、食べるものも着るものも、自然界の様々な生命（いのち）をもらって生活しています。ひとつひとつに感謝することはできなくても、最後まで大切に使ったり、残さず消費することは難しいことではありません。そして、そのことを忘れないでいること。
それは、地球の住民の１人として最低限まもりたいことでもあります。
将来、みなさんが新しいネクタイを買ったり、成人式で振り袖を着たり、ちょっと高級なスカーフやシャツを買った時に、それがシルクであったなら、カイコの姿を思い出してくれるとありがたいです。

私の代わりにエサをあげてくれた人、毎日のように被服室に来て成長を確認してくれた人、虫が苦手な人もたくさんいましたが、そのうちに慣れて「だんだん平気になってきた。」と、言ってくれた人。繭になって初めてカイコに親近感をもった人もいましたね。
みんな、ありがとう。

さて、これから**進化＝脱皮＝羽化**する人たちへ
夏休みの過ごし方によって、その後の**進化（成長）が決まる！**
何も考えずに**ボーっと生きていても**、誰も困らないかもしれないが、
未来の自分が困るかも！
また、普段はできないことで**リフレッシュすることも大事！**
さあ、あなたは、この夏休みを**どんなふうに過ごしてみますか？**

追記
そもそも、なぜ蚕のことを書こうと思ったのか。それは、
２８０人の一年生が様々な場面でガヤガヤゴメゴメ･･･
と、いつも何かに一生懸命になっている様子から連想したからかもしれません。または、一年生たちを育てている気持ちと、蚕を育てていた気持ちがオーバーラップしたのかも（？）あしからず・・・。

来週の予定

７/２２（月）	特別進学講習③
７/２４（火）	特別進学講習④
７/２６（金）	夏季休業前全校集会
７/２７（土）～７/３１（水）	夏季講習　①～⑤